

すべての子どもに家庭のぬくもりを

里親制度は子どもの健全な成長のために必要な子どものための制度です

●里親の種類

✿養育里親✿

子どもが自立できるようになるまで、あるいは家庭に戻れるようになるまでの間、子どもを育てる里親(期間は様々)

✿養子縁組里親✿

将来的に保護者が育てることが難しい子どもと、養子縁組または特別養子縁組によって養親となることを希望する里親

✿専門里親✿

虐待を受けた子ども等を経験や専門知識をいかして家庭で育てる里親

✿親族里親✿

保護者が死亡、行方不明等の理由により子どもを養育できなくなった場合、祖父母などの親族が養育する里親

●里親になるためには

・里親の主な要件として、以下の3点があります。

- ・里親を必要とする子どもへの理解と愛情を持つこと
- ・経済的に問題がないこと
- ・必要な研修を受講すること

特に資格は
必要ありません



ショートステイ里親募集中!!

〈明石市オリジナル〉

- ショートステイとは、保護者が一時的に子どもを家庭で養育できない場合に、施設や里親家庭で預かり、養育をする明石市の子育て支援サービスのひとつです。
- ショートステイ里親は、ショートステイを利用している子どもを預かる、短期間(2~3日)専門の里親です。
- 子どもたちが暮らす小学校区に里親さんがいることで、ショートステイを利用中もいつもどおり幼稚園や学校に通うことができます。
- 養育里親の登録が必要です。



里親制度や里親さんの話を聞いてみたいと思ったら...

お気軽に
お越しください

里親相談会(予約不要)

市内で活躍している里親さんや担当職員が相談を受けます



里親カフェ

地区単位で里親さんを囲んで話を聞いていただけます



分からないこと、気になること、何でもご相談ください

明石こどもセンター さとおや課

TEL:078-918-5282 FAX:078-918-5128
E-Mail:satooyasodan@city.akashi.lg.jp

あかし里親センター

〒674-0068 明石市大久保町ゆりのき通1-4-7 あかし保健所1階
TEL:078-935-9720 FAX:078-935-9721
E-Mail:akashi.satooya@ainote.main.jp

子育てしつづけに悩んだら...

明石こどもセンター(児童相談所)というと、児童虐待のイメージが強いかもしれませんが、子育て全般の相談について、様々な専門職が話を聞き、一緒に考え、全力で子どもと家族をサポートします。

●子どもを強く怒ってしまった

●子どもをかわいいと思えない

●子どもといるとイライラする

●子どもへの関わり方がわからない



誰かに話をするだけで、ちょっと楽になった、
子育て支援サービスを使ったり、子育ての具体的なアドバイスをもらい
気持ちに余裕ができた、子どもをかわいいと思えるようになった、
そんなケースがたくさんあります!



子どものことで「しんどいな」と思ったら、まずは話を聞かせてください

(明石こどもセンター こども支援課 TEL:918-5097)

子育て
応援コラム

子どもをほめるテクニック

~ほめるとしつけはセットです~

こども支援課 児童心理司 櫻井 良子

「叱ってばかりじゃだめだとはわかっているけど、ほめるところがないんです。」

相談で、そんな言葉がよく聞かれます。

叱ってばかりだと、大人も気分がよくないし、疲れますよね。今回は、子どものほめ方について紹介します。

★子どもをほめるコツ

①できたらすぐにほめる

*おもちゃを片付けた、いただきますが言えた、宿題を始めた など

②今、できていることをほめる

「これからも続けて欲しいこと」をほめましょう
*きょうだい仲良く遊んでいる、立ち歩かずに座ってごはんを食べている、言われなくても宿題をしている など



★「待つ」ことで、「叱る」が「ほめる」に変わります!

どうしても叱らなければならないとき以外で、子どもが言うことを聞かないときは、静かに子どもの行動がとまるときや変わるときを待ちましょう。その間、大人も少しクールダウン。両方にとって大事な時間です。そして、子どもが少しでも動いたらすぐほめましょう!

★どうしても叱らなければならないときは?

- ・自分や他人の命や健康、人権を損なうような危険を冒したとき
(車道に飛び出した、他人を傷つけた、火で遊んだなど)
⇒なぜいけないのか、説明と一緒に叱ります
- ・行動を叱ります
(「そんなことをするあなたは嫌い」
⇒「小さい子を叩くのはいけないこと」)

*泣き止んだ、帰り渋りをしていたのに車に乗った、ゲームをやめた など



・子どもの気持ちに共感することも忘れずに(「遊びたかったね」「見たかったね」「気になったね」など)

ほめられた達成感が積み重なって、子どものなかにしつけは定着します

そして、同じ方法で、日々の育児、家事、仕事をこなしている自分や家族もいっぱいほめてください